



橘樹神社



YBPのパブリックアート



金沢横丁の石碑（道標）



宿場そば 桑名屋

教養・運動・交流の 三拍子

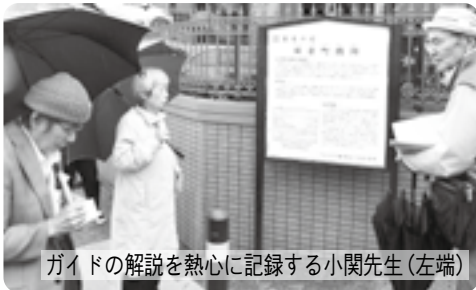
川崎市麻生区 小関 新

歴史に特別な興味が
あったわけではない。た
だ、なんとなく面白そう
だと思い、ひまつぶしの
気持ちで参加してみた。

ところが、これが思いのほか楽しかった。

小雨の中、9名が集まり、地元ガイドの案内
で旧東海道沿いの史跡を巡るうちに、まるで
江戸の町に迷い込んだような気分になった。
地元の歴史に「ほ～なるほど」とうなずいて話
を聞いた。3時間で約4kmの行程は、教養・
運動・交流の三拍子揃った企画だ。しかも参
加費はお手頃で、傷害保険付きの1,000円。
帰る頃には参加者同士すっかり打ち解け、和
やかな雰囲気になっていた。

一句「濡れる道 おでんが匂う 寺の裏」――
思いがけず心あたたま時間となった。



ガイドの解説を熱心に記録する小関先生(左端)

文化部
ハイキング

旧東海道、 保土ヶ谷宿を巡る

10月26日、文化部は歴史散策「旧東海道、保土ヶ谷宿を巡る」
を開催。NPO法人保土ヶ谷ガイドの会の案内のもと、約4・3
kmの行程を約3時間かけて歩いた。会員や家族ら9名が参加した。
序盤は小雨がちらつく雨模様で、途中から雨は上がったものの、
曇り空で肌寒い中でのハイキングとなった。

コースは、天王町駅前公
切りに、鎌倉時代初期に源
園からスタート。かつて約
頼朝の天下平定を祝い創建
27mの長さを誇った、保土
された橘樹神社、本陣を勤
痕跡を、今回の散策で知る
ヶ谷宿を代表する風景とし
めた郊部家（軽部家）の菩
提寺である大仙寺、さらに
は問屋場・本陣・旅籠跡な
も描かれた帷子橋の跡を皮
届いたので掲載する。



【ハイキングコース(約4.3km。一部省略)】天王町駅前公園(旧
帷子橋。集合:9時15分)～橘樹神社～旧古町橋跡～YBP(横
浜ビジネスパーク)～神明社～見光寺～大蓮寺～助郷会所跡
～高札場跡～本陣跡～大仙寺～JR保土ヶ谷駅(解散:12時頃)

『ネガティブ・ケイパビリティ 答えない事態に耐える力』を読んで

書評

鎌倉市 湯浅 章平

帚木蓬生氏の『ネガティ
ブ・ケイパビリティ 答え
の出来ない事態に耐える力』
(2017年刊)は、悩め
る多くの現代人に読んでい
ただきたい福音書である。

筆者は本文中で、ネガティ
ブ・ケイパビリティの意味
を「どこにも答えの出ない
、悩める現代人に読んでい
ただきたい福音書である。



『ネガティブ・ケイパビリティ
答えない事態に耐える力』
著者：帚木 蓬生
朝日新聞出版、2017年4月、
1,430円(税込)

たちに宛てた文面の中であ
り、キーツがその生涯でこ
の言葉を用いたのはただ1
度きりと言われている。
「ネガティブ・ケイパビ
リティ」は、自分の内に対
してだけでなく、他者と
関わる際にも必要不可欠で
あり、医療や教育の現場で
は欠くことのできない能力
である。医師は本来、患者
の症状から患者の問題をで
きるだけ早く、解決に導い
ていく。この能力は「ポジ
ティブ・ケイパビリティ」
と言われるもので、医師に
はもちろん必要な思考の一
つである。しかし、例えば
末期がんの患者を前にした
ときには、「ポジティブ・
ケイパビリティ」という思
考のみでは立ち行かなくな
り、むしろ弊害さえ生じる
可能性がある。このような
状況下で役立つのは、たと
え何もできない宙ぶらりん
の状況であっても、患者や
家族の側に立ち、寄り添い、
彼らの話を傾け続ける
姿勢である。

事後抄録

歯科特別研究会 認知症が疑われる 患者への対応



講師の下山氏

とが必須です。適切な歯科
医療のためにも患者の行動
を理解・受容するためにも
必要なことです。

歯科研究部は10月31日、
歯科特別研究会「認知症が
疑われる患者への対応」を
協会会議室とWEB併用で
開催。講師は東京医科歯科
大学名誉教授・下山和弘氏
が務め、70名が参加した。
以下、事後抄録を掲載する。

認知症患者との信頼関係
をつくるのが大切です。
そのためには4大認知症や
軽度認知障害の特徴を理解

するとともに、認知症の中
核症状(記憶障害、失語、
失行、失認、実行機能障害、
見当識障害、理解力・判断
力の低下)やBPSD(徘徊、
暴行・暴言、介護拒否

穏やかなものならば問題行
動は軽減します。基本的な
対応方法として「プライド
を尊重する」「認知症患者
の言動を受容する」「否定
しない・叱らない・馬鹿に
しない」「ふさわしい状況
をつくり成功体験を積み重
ねてもらう」「穏やかな口
調でゆっくり話す」「行う
べきことをパターン化して
ステップごとに繰り返して
伝える」などがあります。

また、家族に対する説明で
は、「さまざまな症状・行
動は認知症、すなわち病気
によって起こる」「介護に
は無理は禁物であり、介護
者にも休息が必要である」
などが必要となります。家
族の困りごとを解決するた
めに科学的な対応やアド

です。認知症患者でも嫌な
ことはよく覚えているもの
です。痛みが治療拒否につ
ながることがあるので注意
が必要です。軽度の認知症
患者では口腔衛生管理を基
本として積極的な歯科治療
(口腔機能管理)を行いま
す。歯科治療が困難になる
前に歯科治療を完了し、そ
の後には口腔衛生管理を中心
に対応していくことが望ま
れます。